

こっこめ通信 12 2011

「よく見てみよう」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

今年は11月になっても暑い日が続きました。最高気温が25℃を越えた日もあり、いつもは10月で鳴き止んでしまうツクツクボウシが11月になっても鳴いていました。また、各地区でヤンバルトサカヤスデの発生が多く、植物公園ビロウ広場のトイレ周辺では、朝に掃除をしても、次の日には何百匹も発生している状態でした。ヤンバルトサカヤスデは、不快なガスを発生するので一匹でもイヤなんですよね。

さて今回は、「何となく違うような気がする」「八丈島の両生類と爬虫類について」のお話です。

何となく違うような気がする



10月31日に公園内の芝生でイネ科の穂をついばんでいるカモがいました。仕草や格好を見てヒドリガモと思い、戻って写真（上右・下中）を見ると、なんだか顔つきが違います。普通のヒドリガモ（上左・下左右）と比べると額の盛り上がり、クチバシの色と形が違います。ヒドリガモと他のカモの雑種のような気がします。

この時期のカモ類は島にとどまる時間が短く、継続的に観察できないのが残念です。繁殖羽になるとどんな姿になるのか見てみたいですね。



またある日、遠くから見てスズメと何となく違うと思い、近づいてみるとスズメではなくニュウナイスズメでした。過去に記録はありますが、稀な渡りの鳥で、ビジターセンターでは初記録になります。

冬になると越冬組のメジロやヒヨドリも渡って来ます。何か違うな？とじっくり観察すると島のシチトウメジロやヒヨドリとの違いが見えるかもしれませんね。その前に、島の鳥をしっかりと観察しておかないと、どっちがどっちだか分からなくなってしまいますね。



「アカコッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

八丈島の両生類と爬虫類について

陸続きになったことがない八丈島に、両生類や爬虫類はどのように島にやってきたのでしょうか？

「ウシガエル」や「スッポン」は、食料として人が持ち込みましたが、現在はほとんど見ることはありません。「クサガメ」や「ミシシippアカミミガメ」は、飼育していたものを飼いきれずに放してしまったと思われます。「ミナミヤモリ」や「ブラーミニメクラヘビ」は、南西諸島から園芸植物に紛れて、「アカハライモリ」は、ホタルの餌のカワニナを持ち込んだ時に一緒に入り込んだ可能性が高いです。古くから島で見られるのは「オカダトカゲ」「ニホンマムシ」の2種類だけで、いつどのように島に渡って来たのか分かっていません。

考えなければならないのは、新たに入り込んだ生きものによって、生態系が崩れることです。ここ数年「アズマヒキガエル」や「アオダイショウ」が島のあちこちで確認されています。これらの天敵の少ない種が島の中で増え、捕食される虫などの在来種が減ってしまう危機感もあります。

右下の表は島で記録のある種です。種名の前に★マークのあるものは、数が増えてしまうと何らかの影響が出てしまう可能性が高いと思われる種です。数が増えてしまうと駆除という事になってしまうのでしょうか？



オカダトカゲ *Eumeces okadae*

伊豆半島の一部と伊豆諸島に分布するトカゲ。ネズミ駆除のために導入されたイタチにより、八丈島では激減してしまいました。イタチのいない八丈小島ではたくさん見られます。



ニホンアカガエル *Rana japonica*

人為的に放たれたカエルですが、現在は生息場所が広がっています。八丈富士の中央火口丘の池の中で見られるカエルもこのニホンアカガエルです。島では1月に卵を産みます。



ニホンマムシ *Gloydus blomhoffii*

島の中では、一番古くからいるヘビで在来種とされています。赤いタイプ、黒いタイプともに見られましたが、捕獲して売られたため激減してしまい、今ではとても珍しくなっています。



ブラーミニメクラヘビ *Ramphotyphlops braminus*

ミズのように見えますが、鱗があり、良く見ると舌を出しているのを見えます。頭側は丸く、尾側は先が尖っています。すべてがメスで単為生殖によって繁殖するため数が増えています。



ミナミヤモリ *Gekko hokouensis*

島で見られるようになったのは20～30年前、ビジターセンター周りにはたくさんいます。冬の寒い時期になるとエアコンの室外機などに入り込み、ショートして壊れてしまうことも。



アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus*

過去に記録はありましたが、2～3年前から、いずみ親水公園周辺で再確認され、その後数が増えています。今年は他の地域からも見つかりました。2月上旬に産卵を確認しています。

両生綱

サンショウウオ目（有尾目）
イモリ科
アカハライモリ
カエル目（無尾目）
ヒキガエル科
★ アズマヒキガエル
アマガエル科
ニホンアマガエル
アカガエル科
ニホンアカガエル
ヤマアカガエル
ウシガエル

爬虫綱

カメ目
ウミガメ科
アオウミガメ
アカウミガメ
タイマイ
オサガメ科
オサガメ
イシガメ科
クサガメ
ヌマガメ科
ミシシippアカミミガメ
スッポン科
スッポン
有鱗目
ヤモリ科
★ ミナミヤモリ
トカゲ科
★ ニホントカゲ
オカダトカゲ
メクラヘビ科
ブラーミニメクラヘビ
ナミヘビ科
★ アオダイショウ
コブラ科
ウミヘビ類
クサリヘビ科
ニホンマムシ

赤字は八丈在来種

分類・和名は日本爬虫両棲類学会による

八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きもので季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。今回は 11 月 14 日 (13 時 30 分～ 15 時) に行いました。

八丈植物公園季節調査 (平成 23 年第 11 回) 参加者：栗田、栗田、菊池昭、小林、湊、VC 菊池

NO.	和名 (島名)	状態	NO.	和名 (島名)	状態	NO.	和名 (島名)	状態
草本			31	ネズミノオ	実	シダ植物		
1	アオツヅラフジ	熟した実	32	ノコンギク	花、盛り	1	イシカグマ	
2	アオノクマタケラン	熟した実	33	ハチジョウアザミ	花	2	オオイタチシダ	
3	アキノノゲシ	花	34	ハチジョウシュスラン	実	3	オオタニワタリ	胞子が熟す
4	アシタバ	実	35	ヒナギキョウ	花と実	4	オニヤブソテツ	
5	アシボソ	花	36	ヒノキバヤドリギ	若い実	5	カニクサ	胞子葉目立つ
6	アツバスマシ	実	37	ヒメクグ	実	6	タチクラマゴケ	
7	イワニガナ	花	38	フウトウカズラ	若い実	7	タチシノブ	
8	ウスベニニガナ	花	39	ヘクソカズラ	実	8	タマシダ	
9	ウリクサ	花	40	ホソバツルメヒシバ	実	9	ノキシノブ	
10	エダウチチヂミザサ	実	41	メヒシバ	実	10	ハチジョウカナワラビ	
11	オニタビラコ	花と実	42	メリケンカルカヤ	実	11	ハチジョウシダ	
12	カタバミ	花と実	43	ヤクシソウ	花、盛り	12	ハチジョウベニシダ	
13	カラムシ	実				13	ヒトツバ	
14	キツネノマゴ	実	木本			14	ホシダ	
15	コゴメガヤツリ	実	1	イタビカズラ	実	15	マツバラソ	
16	コシロノセンダングサ	花と実	2	イヌビワ	実	16	マメツタ	胞子葉目立つ
17	コスミレ	実	3	オオバヤシャブシ	実と雄花の花芽	今回はシダ植物 16 種を含め、75 種の植物を観察しました。昆虫では、夏に一時見られなくなっていたテングチョウがまた出始め、草地ではオンブバッタやトノサマバッタが目立ちました。鳥ではメジロが集団で賑やかに行動するのが見られました。		
18	コセンダングサ	花と実	4	オオムラサキシキブ	実が残る			
19	コナスビ	花	5	ガクアジサイ	実			
20	コニシキソウ	実	6	シチトウタラノキ	熟した実			
21	コブナグサ	実	7	シマクサギ	実			
22	ススキ sp.	実	8	スダジイ	実と虫こぶ			
23	スズメノトウガラシ	花と実	9	トベラ	実			
24	セイヨウタンポポ	花	10	ハゼノキ	実			
25	タケダグサ	花	11	ハチジョウキブシ	花芽			
26	タチスズメノヒエ	実	12	ヒサカキ	蕾と実			
27	チヂミザサ	実	13	ヒメユズリハ	熟した実			
28	ツルソバ	花と実	14	ホルトノキ	実			
29	ツワブキ	花、盛り	15	モチノキ	虫こぶが目立つ			
30	トキワハゼ	花	16	モッコク	実			

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、周辺海域で見られる「アオウミガメ」にスポットを当ててみたいと思います。



アオウミガメ *Chelonia mydas mydas*

カメ目ウミガメ科。日本周辺では暖かな海域で見られ、八丈島周辺では普通に見られます。ダイビングをすれば、ほぼ見られるほどです。

産卵地は屋久島以南や小笠原諸島ですが、伊豆諸島での産卵の記録もあります。八丈島でも上陸の跡が見つっていますが、産卵の形跡はなかったようです。(アカウミガメは産卵の為に上陸する年もあります)

2011 12

八丈ビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。
左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
		 この色の日は 特別行事があります		1 	2	3 ガイドウォーク
4 ガイドウォーク	5	6	大雪 7	8	9	10 ガイドウォーク
05:02 12:04 19:13	01:38 06:27 12:58 20:06	02:58 07:51 13:46 20:48	03:50 08:54 14:28 21:24	04:30 09:42 15:05 21:58	05:05 10:20 15:40 22:32	05:38 10:54 16:13 23:05
11 ガイドウォーク 植物公園 季節調査会	12	13	14	15	16	17 ガイドウォーク
06:10 11:26 16:46 23:39	06:43 11:58 17:20	07:16 00:14 17:56 12:32	07:50 00:51 18:35 13:10	08:26 01:29 19:20 13:54	09:03 02:09 20:14 14:47	09:43 02:53 21:26 15:53
 18 ガイドウォーク 冬の特別行事 「リースを作ろう」	19	20	21	冬至 22	23 ガイドウォーク	24 ガイドウォーク 八丈学講座 「火山灰を調べよう」
10:27 03:43 23:10 17:12	11:17 04:45 18:34	01:14 06:03 12:15 19:43	02:54 07:33 13:15 20:41	04:02 08:51 14:12 21:31	04:54 09:51 15:05 22:17	05:38 10:39 15:53 23:00
 25 ガイドウォーク 冬の特別行事 「正月飾りを作ろう」	26	27	28	29 ガイドウォーク	30 ガイドウォーク	31 ガイドウォーク
06:17 11:21 16:38 23:40	06:53 12:00 17:21	07:25 00:18 18:02 12:37	07:54 00:54 18:42 13:14	08:21 01:27 19:23 13:54	08:47 01:58 20:07 14:38	09:15 02:28 21:01 15:33

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化と一緒に感じましょう！
12/11（13:30～ 約1時間半） 中学生以上
ビジターセンター集合・解散 無料 定員：15名

特別行事

「リースを作ろう」

毎年恒例、クリスマスに合わせていろいろなリースを作りましょう！
12/18（13:30～ 約1時間半） 小学生以上（低学年は保護者同伴）
ビジターセンター集合・解散 無料 定員：10名

特別行事

「正月飾りを作ろう」

東京都立小峰公園の谷戸田で収穫された稲藁を使って正月飾りを作ります
12/25（13:30～ 約1時間半） 小学生以上（低学年は保護者同伴）
ビジターセンター集合・解散 無料 定員：10名

八丈学講座

「火山灰を調べよう」

毎月行っている八丈学講座。今月は降り積もった火山灰を実体顕微鏡で観察します。
12/24（13:30～ 約1時間半） 中学生以上
ビジターセンター集合・解散 無料 定員：15名

年末年始特別行事

「体験八丈太鼓」

ビジターセンターの年末年始といえこれ！ 太鼓たたけばストレスも吹き飛びますよ！
12/29～1/3 ビジターセンターの開館中（9:00～16:45）
いつでも・だれでも・無料
て〜こ、はたきにおじゃれ！

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち

11:00～ おじゃりやれ 八丈島

14:00～ おじゃりやれ 八丈島

15:00～ おじゃりやれ 八丈島

16:00～ 八丈・海・生きものたち

上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2011.12.1 第127号

開館時間 9:00～16:45 年中無休（入場無料）

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

編集後記

よく見ると違うのが見えてくることがありますが、野外では分かりづらいですね。その時に役立つのが撮影した画像です。いろんな角度から何枚も撮影しておけばなおさらです。デジタルになって気にせずにシャッターが切れ、何百枚も撮影できるからです…。(高)